

銀河レポート401

No. 46
3月号

発行日：平成31年3月1日
編集&発行：四日市市立博物館
プラネタリウム
電話：059-355-2700
HP：<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/museum/museum.html>

3月の星空

北極星

地球の自転軸(地軸)をまっすぐ北に伸ばした方向、つまり、地球の北極の真上(天の北極)にある星を「北極星」と呼びます。いつも北の空のほぼ同じ位置にあって、北を指し示す便利な星です。現在は、ポラリスという恒星が北極星に相当します。「歳差(さいさ)運動」というコマのような地軸の首振り運動のために天の北極は少しずつ移動し、将来、別の恒星が北極星となります。全天の星は、時間とともに北極星を中心にして反時計回りに回っているように見えます。ただ、2等星なので少し暗く、見つけるには北斗七星を利用すると便利です。北斗七星のひしゃくの先端にある二つの星の長さの5倍の位置に見つかります。

おおぐま座とこぐま座

北の空高くに「おおぐま座」が見られます。クマの腰から尻尾にあたるのが、ひしゃくの形をした北斗七星です。今の時期は、ひしゃくの柄の部分をもっすぐに立てながら昇ってきます。日本ではサイコロの4と3の目に見立てて「四三(しそう)の星」とも呼ばれます。北斗七星は英語では「大きなさじ」を意味するビッグディッパーと呼ばれます。そのおおぐま座と背中合わせの位置に「こぐま座」も見られます。このクマの尻尾の先で輝くのが北極星です。小さなひしゃくの形をしているのでリトルディッパーとも呼ばれます。



3月15日21時の星図

南

星図：ステラナビゲータ10/(株)アストロアーツ

ひなまつり星

ひな祭りの日の頃、夜空の天頂付近に、2つの明るい星が仲良く輝いて見られます。「ふたご座」のカストルとポルックスです。1等星のポルックスに対して、カストルは少し暗めの2等星ですが、並んでいるのですぐ見つけられます。日本では、ひな人形に見立てて「ひなまつり星」と呼ばれていて、ポルックスが「おひなさま」カストルが「おだいりさま」です。ギリシャ神話では、神と人間との間に生まれた双子で、兄のカストルは人間の血を、弟のポルックスは神の血を受け継ぎました。ある戦いで兄のカストルが命を落としてしまいます。弟のポルックスは神にお願いして自分の命を兄に半分与え、夜空の星となったそうです。

かに座とプレセペ星団

かに座は、お誕生日の12星座のひとつですが、4等星以下の暗い星ばかりなので夜空で見つけたことがある人は少ないのではないのでしょうか。かに座の両隣にいるふたご座のポルックス、しし座のレグルスのちょうど中間あたりを目を凝らして探すとカニの甲羅にあたる四角い星の並びが見つかります。この甲羅の中にぼんやりと雲のように見える星の集まりがプレセペ星団です。望遠鏡や双眼鏡で見ると、約40個の星の集団がきれいに見られます。

宇宙塾 第4回 報告

「月に挑む！」

2月9日(土)にJAXAから大竹真紀子先生をお招きして「宇宙塾」を実施し、月探査計画の最新情報等について詳しくお話しいただきました。特に月周回衛星「かぐや」の撮った画像から、月の地下構造や月の形成過程まで解明できることは驚きでもありました。さらに、これからの探査計画の概要を示していただき、参加者のみなさんに月探査計画への参加の仕方や月旅行の可能性等の様々な夢を与えていただきました。



プラネタリウム特別企画

KAGAYAライブトーク 星の旅～世界の星空を巡って～



プラネタリウム作品「星の旅～世界編～」の制作者であり星景写真家でもあるKAGAYAさんをお招きし、世界中を巡って見てきた美しい星空や番組制作についてお話しいただきます。
日時：3月23日(土)18時30分から20時
(開場18時15分)
場所：5階 GINGA PORT401(プラネタリウム)
定員：140席(自由席)
料金：一席600円
※1階総合受付にて前売り中

3月のガリレオ教室

〈「はやぶさ2」のめざす先〉

小惑星探査機「はやぶさ2」が小惑星リュウグウへ到着して表面の物質を採集するタッチダウンを実施しました。このリュウグウの様子について、天文ボランティアがわかりやすく解説します。

日時：3月10日(日)
①11時から11時20分
②14時から14時20分
場所：5階コズミック
ラウンジ



★★観望会★★



《天文ボランティア主催観望会》

日時：3月16日(土)
時間：18時から19時30分
場所：博物館前市民公園
内容：月を見よう

※天候不良時は中止です。
※当日は自由参加・無料です。
※きらら号は出勤しません。

《博物館主催きらら号観望会》

日時：3月23日(土)
時間：10時30分から12時
場所：博物館前市民公園
内容：太陽を見よう

※天候不良時は中止です。
※当日は自由参加・無料です。

3月の月

7日		新月
14日		上弦
21日		満月
28日		下弦

編集後記

南の夜空の主役がオリオン座からふたご座に移り変わり、いよいよ春がやって来た実感します。和名「ひなまつり星」に見守られながら、夜空がゆっくりと春の星空へと模様替えをしていきます。一つの季節に飽き、次の季節が待ち遠しくなるのが、ちょうど三か月という期間のように思います。春の星空の魅力に胸がときめく季節を迎えることとなります。